

広島県経済の動向

令和7年5月20日

商工労働局

目 次

1	経済動向の概要	1
	（1）国内経済の動向	
	（2）広島県経済の動向	
2	県内主要製造業の生産動向	3
	（1）鉄鋼	
	（2）自動車	
	（3）造船	
	（4）一般機械	
	（5）電気機械	
3	中小企業の動向	5
	（1）概況	
	（2）景況感・景況感の変化	
	（3）前月から変化のあった主な業種	
4	企業倒産状況	7
	（1）概況	
	（2）業種別	
	（3）原因別	
	（4）今後の見通し	
5	最近の雇用失業情勢	8
	（1）県内の有効求人・求職の動向	
	（2）県内の新規求人・求職の動向	
	（3）県内の人員整理の状況	
	（4）完全失業率の状況（全国・県内）	

（注）「広島県経済の動向」は、国、その他機関等から発表される各種指標を編集、加工し、とりまとめたものです。

1 経済動向の概要

(1) 国内経済の動向

ア 概要

指 標	令和7年		
	2月	3月	4月
基調判断	景気は、一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復している		景気は、緩やかに回復しているが、米国の通商政策等による不透明感がみられる
輸 出	このところ持ち直しの動きがみられる		
生 産	横ばいとなっている		
設備投資	持ち直しの動きがみられる		
雇用情勢	改善の動きがみられる		
個人消費	一部に足踏みが残るものの、持ち直しの動きがみられる		消費者マインドが弱含んでいるものの、雇用・所得環境の改善の動きが続く中で、持ち直しの動きがみられる
住宅建設	おおむね横ばいとなっている		
消費者物価	上昇している		
企業収益	総じてみれば改善しているが、そのテンポは緩やかに なっている	改善している	

イ 先行き

先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクが高まっている。加えて、物価上昇の継続が消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響なども、我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、金融資本市場の変動等の影響に一層注意する必要がある。

【内閣府「月例経済報告」（令和7年4月18日公表）】

(2) 広島県経済の動向

ア 概要

指 標	令和7年		
	2月	3月	4月
基調判断	緩やかな回復基調にある		
輸 出	弱めの動きとなっている		
生 産	横ばい圏内の動きとなっている		
設備投資	増加している		
雇用・所得	緩やかに改善している		
個人消費	緩やかな回復基調にある		
住宅投資	弱めの動きとなっている		
消費者物価 (除く生鮮食 品、広島市)	前年を上回っている		

イ 県内の経済の先行き

先行きは、各国の通商政策等の影響を受けた海外経済の動向や企業の賃金・価格設定行動などが、県内の経済金融情勢および回復のペースに与える影響を注視していく必要がある。

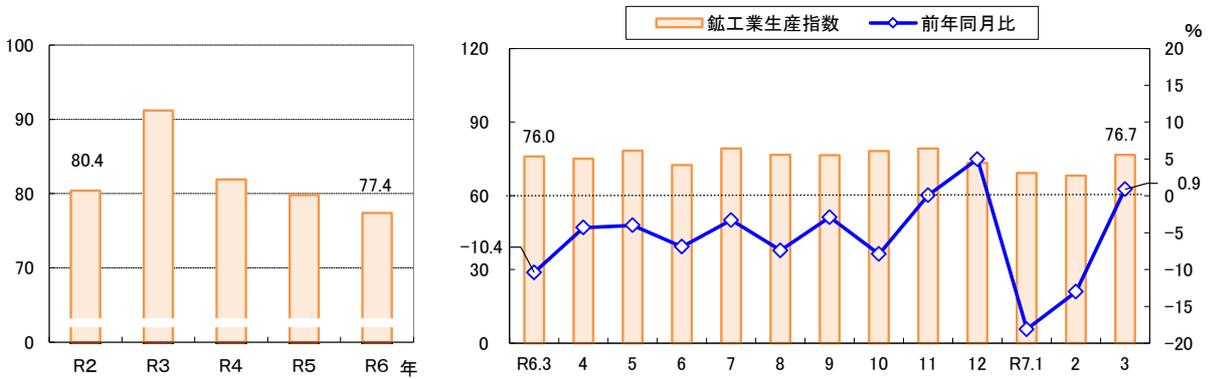
【日本銀行広島支店「広島県の金融経済月報」(令和7年5月12日公表)】

2 県内主要製造業の生産動向

(1) 鉄鋼 (令和7年3月)

3月の鉱工業生産指数(鉄鋼業、原指数、速報値、平成27年=100)は76.7で、前年同月比で0.9%増加となっている。

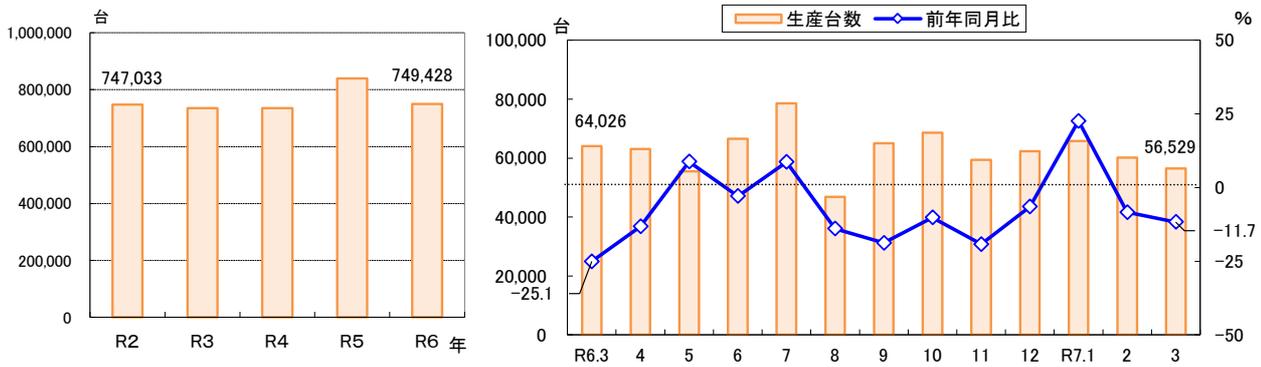
鉱工業生産指数(鉄鋼業)(年別、月別・前年同月比) 【県統計課】



(2) 自動車 (令和7年3月)

3月の国内生産台数は56,529台で、前年同月比で11.7%減少となっている。

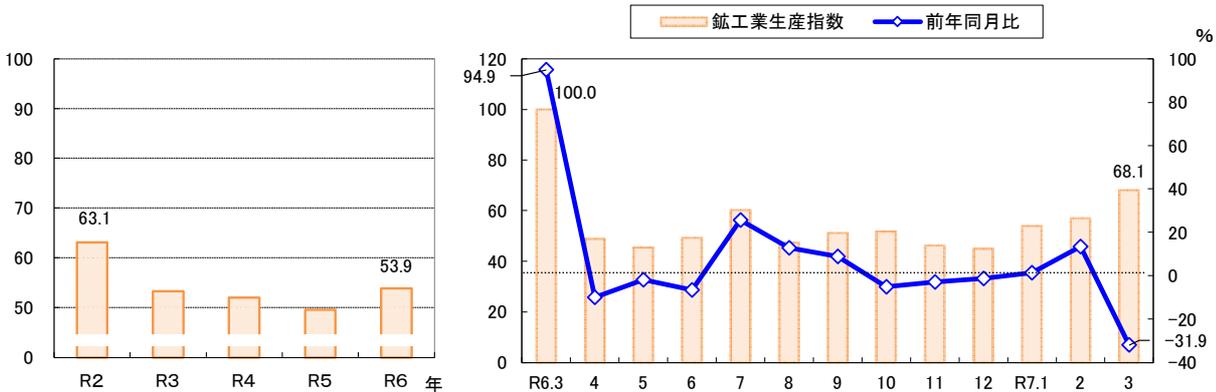
自動車生産台数(年別、月別・前年同月比) 【マツダ(株)】



(3) 造船 (令和7年3月)

3月の鉱工業生産指数(造船部門、原指数、速報値、平成27年=100)は68.1で、前年同月比で31.9%減少となっている。

鉱工業生産指数(造船部門)(年別、月別・前年同月比) 【県統計課】



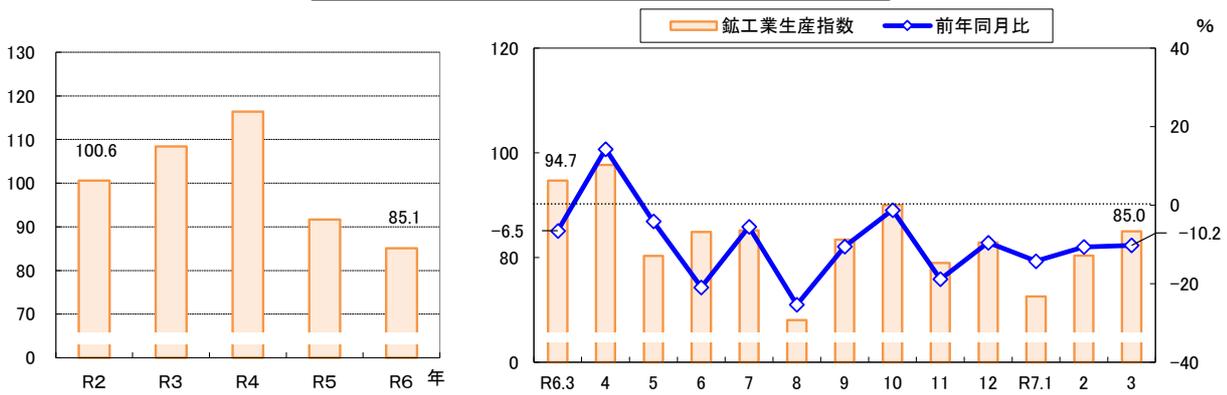
※造船部門に含まれる鋼船修理は、工事終了時での報告に依拠しており、令和6年3月において、生産指数の大幅上昇に寄与していた。

(4) 一般機械 (令和7年3月)

3月の鉱工業生産指数(一般機械工業(総合)、原指数、速報値、平成27年=100)は85.0で、前年同月比で10.2%減少となっている。

鉱工業生産指数(一般機械(総合))(年別、月別・前年同月比)

【県統計課】

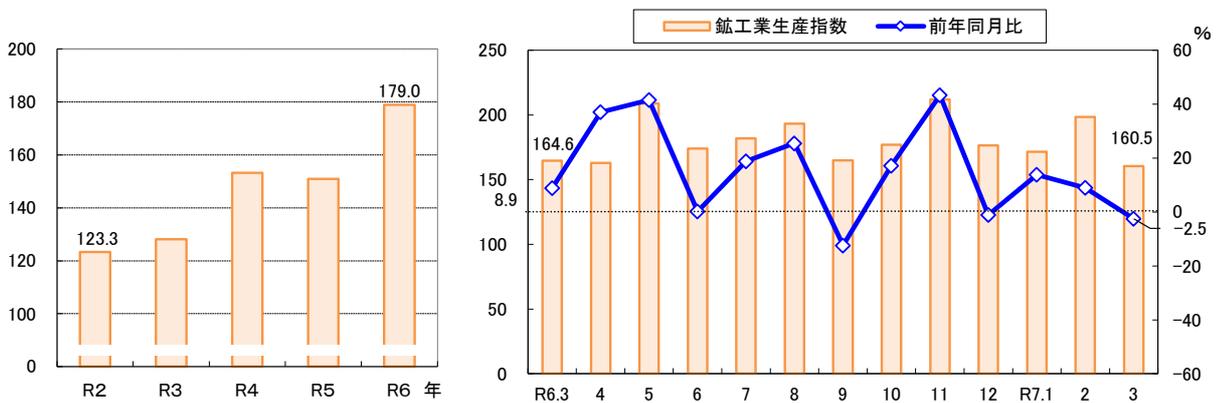


(5) 電気機械 (令和7年3月)

3月の鉱工業生産指数(電気機械工業(総合)、原指数、速報値、平成27年=100)は160.5で、前年同月比で2.5%減少となっている。

鉱工業生産指数(電気機械工業(総合))(年別、月別・前年同月比)

【県統計課】



3 中小企業の動向（令和7年3月）

【広島県中小企業団体中央会（令和7年4月15日時点）】

（1）概況

原材料費、エネルギーコスト等の高騰や人手不足に伴う人件費の上昇等に価格転嫁が追いつかず、景況感は厳しい状況が続いている。加えて、米国の関税措置による中小企業への影響が懸念されており、先行き不透明感が増している。

自動車関連業種では、3月の国内自動車販売台数は前年同月比+10.7%と3か月連続増加。マツダ車は+24.3%と4か月連続増加した。

また、木材業界では、3月の全国新設住宅着工戸数は89,432戸で前年同月比+39.1%。県内の3月の着工戸数は2,175戸で、前年同月比+70.9%となった。

※マツダ車に関する記載はマツダ（株）が発表する「3月の生産・販売状況について」に基づく

※木材業界に関する記載は、国土交通省が公表する「建築着工統計調査報告」及び広島県がホームページに掲載する「新設住宅着工戸数」の3月分のデータに基づく

（2）景況感・景況感の変化

業種	2月の景況感	3月の景況感
食料品	やや悪い	やや悪い
繊維・衣服	普通	普通
木材	悪い	普通
家具	やや悪い	やや悪い
印刷	普通	やや好況
化学	やや悪い	やや悪い
プラスチック製品	やや悪い	やや悪い
土石製品	悪い	悪い
鉄鋼（铸件）	普通	やや悪い
金属製品	普通	普通

業種	2月の景況感	3月の景況感
一般機械器具	やや悪い	普通
電気機械器具	やや悪い	やや悪い
自動車部品	やや悪い	やや悪い
造船	普通	普通
建設	やや悪い	やや悪い
トラック輸送	やや悪い	やや悪い
内航海運	普通	普通
卸売	やや悪い	やや悪い
小売	やや悪い	やや悪い
情報サービス	普通	普通

（単位：業種）

景況感	2月	3月	増減数
好況	0	0	0
やや好況	0	1	1
普通	7	7	0
やや悪い	11	11	0
悪い	2	1	▲ 1

(3) 前月（2月）から変化のあった主な業種

業種	2月の景況感	3月の景況感	変化の理由・状況
一般機械器具	やや悪い	普通	売上は前月比+2%、前年同月比+21%となった。トランプ政権の動向もあり、国内外の設備投資意欲が停滞している。 【広島県東部機械金属工業協同組合】
鉄鋼（鋳物）	普通	やや悪い	材料費等の高騰分を価格転嫁しづらい傾向にあるため、利益確保に若干の影響が出ている。 【靱鉄鋼協同組合連合会】

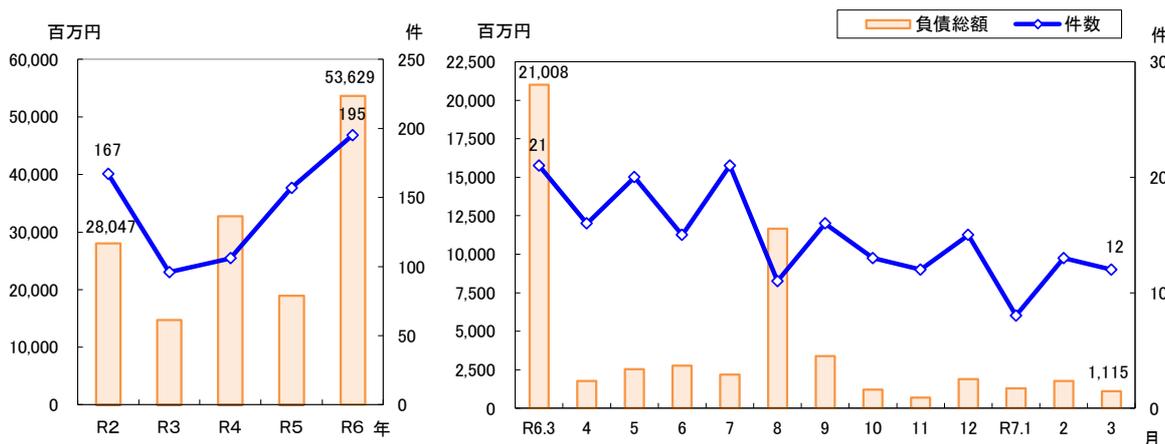
4 企業倒産状況（令和7年3月）

(1) 概況

- ・負債総額1,000万円以上の倒産は、件数が12件、総額11億1,500万円であった。
- ・前月比で件数は1件減少し、負債総額は6億4,800万円減少した。
- ・前年同月比では、件数は9件減少し、負債総額は198億9,300万円減少した。
- ・大型倒産（負債総額10億円以上）の発生はなかった。

区 分	令和7年1月	令和7年2月	令和7年3月
件 数 (前年同月比)	8件 (46.7%減)	13件 (35.0%減)	12件 (42.9%減)
負債総額 (前年同月比)	1,296百万円 (41.6%減)	1,763百万円 (23.9%減)	1,115百万円 (94.7%減)

企業倒産件数・負債総額(1,000万円以上)(年別・月別・前年同月比)



(2) 業種別

件数は、建設業が4件、製造業、サービス業が各3件、卸・小売・飲食業、その他が各1件となった。負債総額では、製造業、サービス業、建設業及び卸・小売・飲食業、その他 の順となった。

(3) 原因別

原因別では、販売不振が10件、他社倒産の余波が2件であった。

(4) 今後の見通し

令和7年3月度の倒産件数は12件で、3月度としては令和4年より4年連続で10件を上回った。負債総額は11億1,500万円で、4年連続で10億円を超えた。しかし、前年同月比では倒産件数、負債総額ともに減少が続く結果となった。

業歴別倒産状況では30年以上が5件、20年以上30年未満が2件、10年以上20年未満が1件と業歴10年以上の倒産が全体の66.6%を占め、前月2月度では業歴10年以上の倒産が全体の61.5%と比較的業歴の長い企業の倒産が続いている。

原因別にみると販売不振が10件で最多となり、既往のシワ寄せ、売掛金等回収難は0件で、これらを合計した不況型倒産は10件で全体の83.3%を占めた。

そのような中、新型コロナウイルスを要因とした倒産は3月度12件中4件発生し、これまでの累計は292件（負債総額1,000万円以上かつ弁護士一任・準備中を含む）となっている。

3月度倒産の推移として、令和4年3月は11件、令和5年3月は16件、令和6年3月は21件と増加傾向にあり、コロナ禍で打ち出されたゼロゼロ融資や支援策によって抑制された倒産が、支援策の終了による影響などで件数が増加、特に令和6年3月は191億円を超える大型倒産が発生するなど負債総額を大幅に引き上げた。

ただ、令和7年3月については令和5年3月の倒産件数を下回っており、負債総額についても令和5年3月の12億1,600万円を下回るなどコロナ禍で抑制された倒産の反動は落ち着きを見せている。

倒産の内訳として、建設業の倒産が増えている。県内での大型工事に地場企業が携わることなく、ゼネコンから中小の建設企業へ受注が流れておらず、売上確保ができないなかで原材料や労務費の高騰に対応できないことが背景と見られる。

また、前月同様に銀行取引停止の増加が目立ち、企業のキャッシュ不足が懸念される。日本銀行が2度の政策金利の引き上げを実施し、金融機関はさらなる金利引き上げに動いているなど予断を許さない状況にある。

少子高齢化やサプライチェーン問題を背景にヒト・モノ・カネが不足しており、国内市場が伸び悩むなか受注拡大は期待できず、経営効率の強化が生き残りの要因となっている。未だに継続する円安や少子高齢化、金利上昇など更なる負担要因は避けられず、これらへの対応が急務となっている。

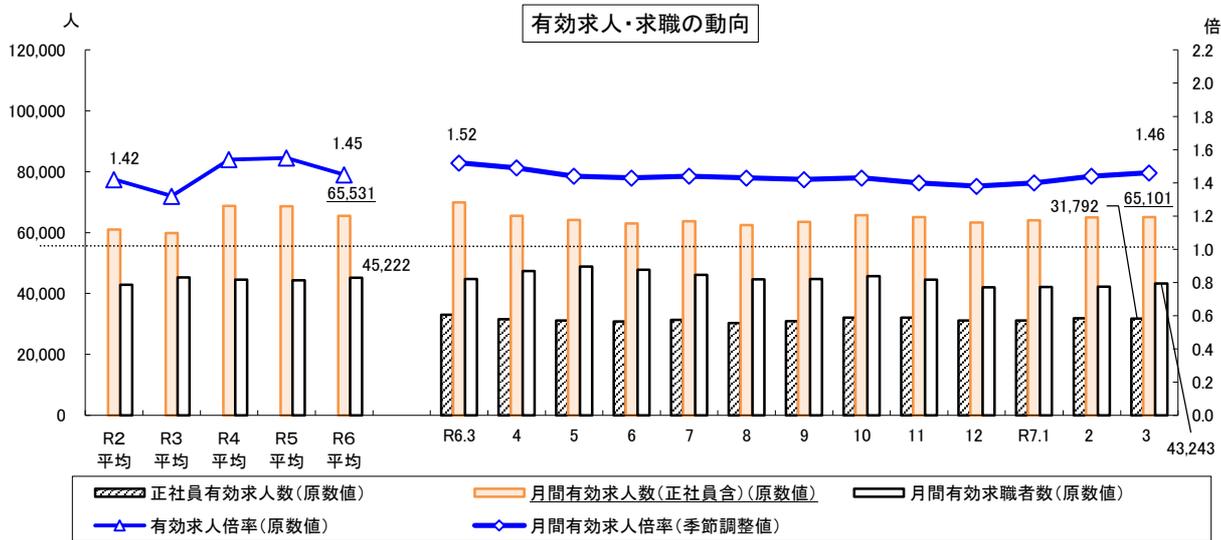
【(株)東京商工リサーチ(令和7年4月3日時点)】

5 最近の雇用失業情勢（令和7年3月）

（1）県内の有効求人・求職の動向

区 分	令和7年1月	令和7年2月	令和7年3月
有効求人倍率〈季節調整値〉 (前月比)	1.40倍 (+0.02ポイント)	1.44倍 (+0.04ポイント)	1.46倍 (+0.02ポイント)
正社員有効求人倍率 (前年同月比)	1.29倍 (▲ 0.01ポイント)	1.31倍 (+0.02ポイント)	1.27倍 (+0.03ポイント)

【広島労働局】



(注1) 正社員有効求人倍率は、正社員の有効求人数をパートタイムを除く常用有効求職者数（派遣労働者や契約社員を希望する者も含む）で除して算出しているため、厳密な意味での正社員有効求人倍率より低い値となる。

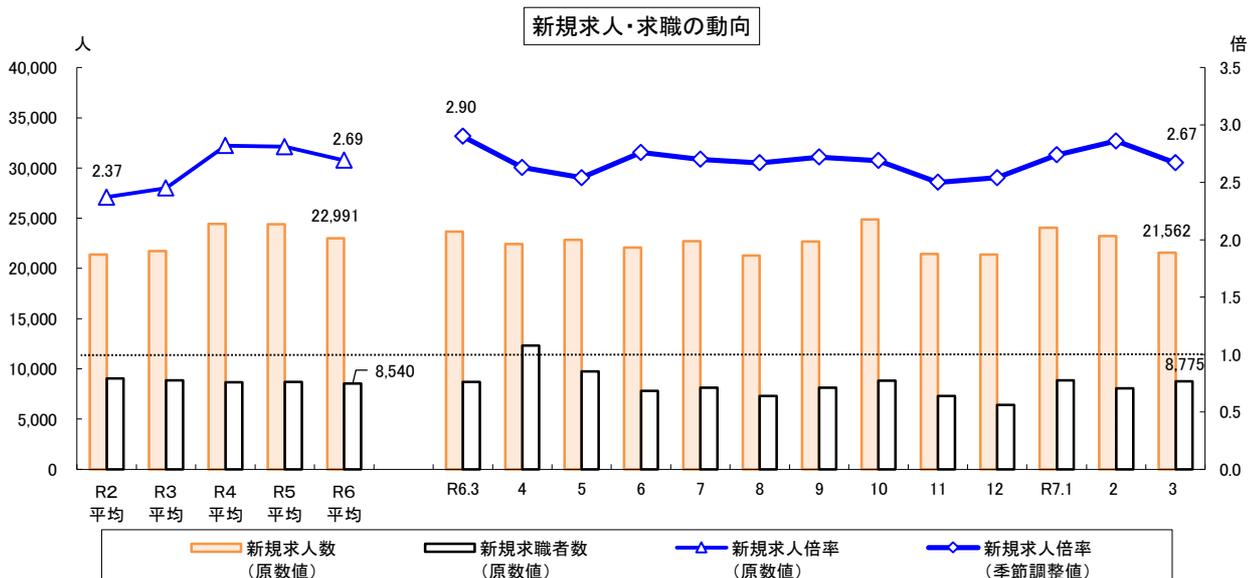
(注2) 正社員有効求人倍率は、季節調整されていない。

(注3) 季節調整値は毎年1月分公表時に過去にさかのぼって改訂される。

（2）県内の新規求人・求職の動向

区 分	令和7年1月	令和7年2月	令和7年3月
新規求人倍率〈季節調整値〉 (前月比)	2.74倍 (+0.20ポイント)	2.86倍 (+0.12ポイント)	2.67倍 (▲ 0.19ポイント)

【広島労働局】

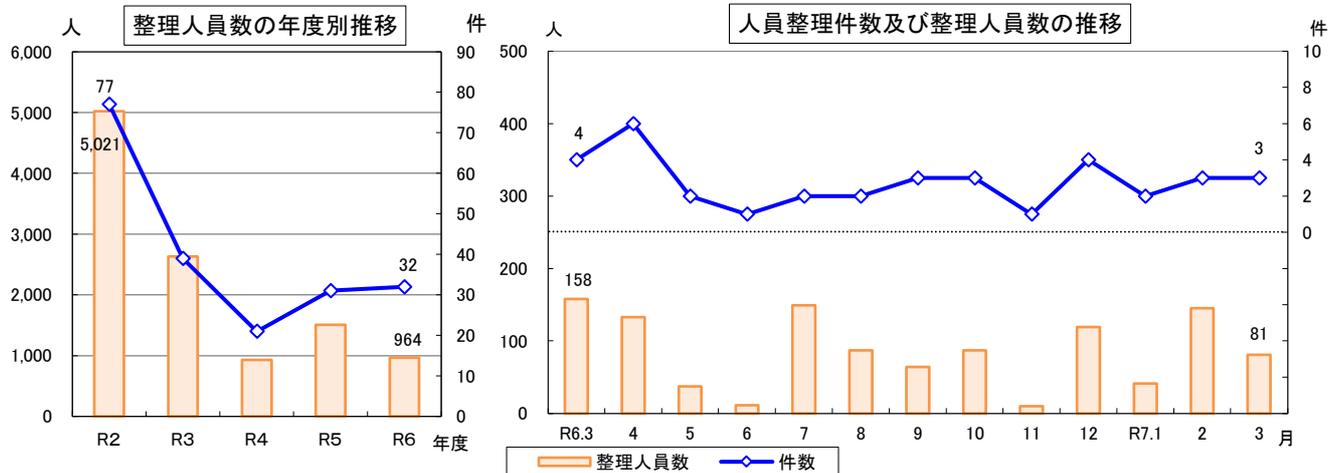


(注) 季節調整値は毎年1月分公表時に過去にさかのぼって改訂される。

(3) 県内の人員整理の状況（整理人員10人以上）

区 分	令和7年1月	令和7年2月	令和7年3月
件数 (前年同月比)	2件 (+ 1件)	3件 (+ 2件)	3件 (▲ 1件)
整理人員 (前年同月比)	41人 (▲ 92人)	145人 (+ 133人)	81人 (▲ 77人)

【広島労働局】

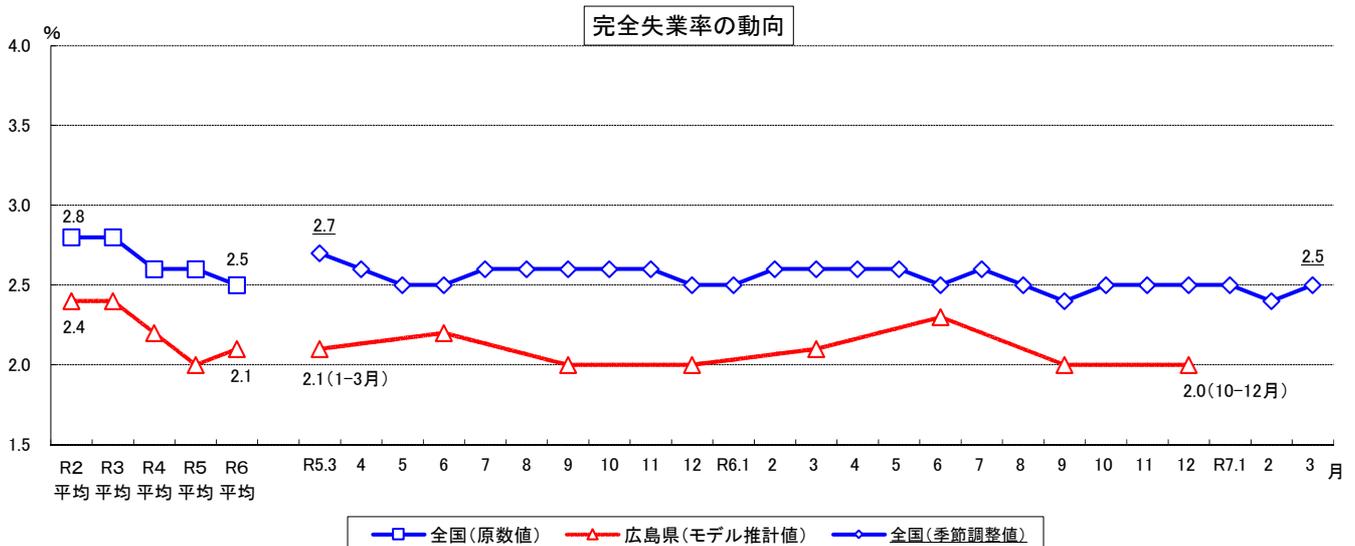


(4) 完全失業率の状況（全国・県内）

区 分	令和7年1月	令和7年2月	令和7年3月
全国完全失業者数 (前年同月比)	163万人 (±0万人)	165万人 (▲ 12万人)	180万人 (▲ 5万人)
全国完全失業率〈季節調整値〉 (前月比)	2.5% (±0.0ポイント)	2.4% (▲ 0.1ポイント)	2.5% (+ 0.1ポイント)

区 分	令和6年		
	4～6月平均	7～9月平均	10～12月平均
広島県完全失業率 (モデル推計値) (前年同期比)	2.3% (+0.1ポイント)	2.0% (±0.0ポイント)	2.0% (±0.0ポイント)

【総務省統計局】



※ 全国完全失業率の季節調整値は毎年1月分公表時に過去にさかのぼって改訂される。
 ※ 広島県(モデル推計値)は、毎年1～3月期平均公表時に、新たな結果を追加して再計算を行い、前年までの四半期平均及び年平均結果を過去にさかのぼって一部改定している。